

【令和4年山王原自治会防災活動説明会】説明資料抜粋

山王原自主防災会事務局作成

山王原自治会班別説明会

①

2022.5.19 事務局

1 説明 【60分】

①自主防災活動について

②今年実施する防災訓練について

2 質疑応答 【15分】

3 防災訓練時役割分担の確認 【15分】

①情報収集班(長)

②その他自主防災会役付者

③一般自治会員

山王原自治会班別説明会資料一覧

②

2022.5.17

事務局作成

1 自主防災活動について

- ①【自主防災活動】を進めるに当たって
- ② 令和4年度山王原自主防災会組織図
- ③【自分と家族】を守るために家でしておくこと
- ④ ブロック塀等の点検のチェックポイント
- ⑤【地震発生時】家での行動について
- ⑥ 消火器の種類と事務局推奨消火器について
- ⑦「非常持出品」・「非常備蓄品」チェックリストと各家庭記入用紙
- ⑧ 災害時における『安否確認カード』の使用方法

2 防災訓練について

- ① 本年度行なう【防災訓練】について
- ② 訓練時の自治会員全員の行動について
- ③ 訓練用『安否確認シート』の記入方法について
- ④ 訓練用『安否確認シート集計表』について

『参考資料』

- ① 震度階級別状況表

★ 災害時の自治会員全員の行動について（目標）

1 自主防災活動とは？

- ・地域住民(自治会会員)による自主的な防災活動です。
- ・目標「地震災害による被害者ゼロ」を目指します。

- | | | |
|---|-----------|---------------------------------|
| ① | 自助 | 自分自身を守る + 家族を守る |
| ② | 共助 | 周囲の人たちが協力して助け合う → 自主防災活動 |
| ③ | 公助 | 公的機関(市・県・消防等)による援助・救助 |

2 なぜ自主防災活動が必要なのか？

- ・大地震の時、建物の倒壊・火災の発生・道路の損壊等により市町村や消防などの公的機関の対応が遅れる。 「少なくとも72時間(3日間)は行政に頼らない」
- ・自力で避難することが困難な人が居られます。(今後増えていくと思われます)
災害時要援護者(災害時避難行動及び避難所生活が非常に困難／市に登録 山王原5名)
 高齢者・障害者・難病の方・乳幼児 災害時の避難支援が必要

【参考データ】 自主防災会結成率

平成7年 1995年 阪神淡路大震災

2003年 全国3240市町村中 2500防災会組織あり 約60% (世帯加入率)
 1位静岡県98% 2位山梨県97% 3位愛知県95% 6位神奈川県81%



東海地震対象地域

2020年 全国1741市町村中 1684防災会組織あり 約84% (世帯加入率)
 1位兵庫県98% 2位山口県97% 3位大分県97% 37位神奈川県78%

2003年→2020年	静岡県	山梨県	愛知県	神奈川県	福島県
全国でマイナスは5県のみ	98→94%	97→93%	95→95%	81→78%	76→75%
	1位→10位	2位→14位	3位→8位	6位→37位	

3 なぜ「山王原自主防災会活動」が継続されなかったか？

山王原自主防災会は1997年に結成されました。(阪神淡路大震災の2年後)しかし、数回訓練を実施しただけで活動は休止状態となってしまいました。

【原因】

- ・自治会役員・会員共に防災意識(知識)が低かった。
- ・自治会役員・会員共に防災活動(防災訓練)の必要性をあまり感じていなかった。

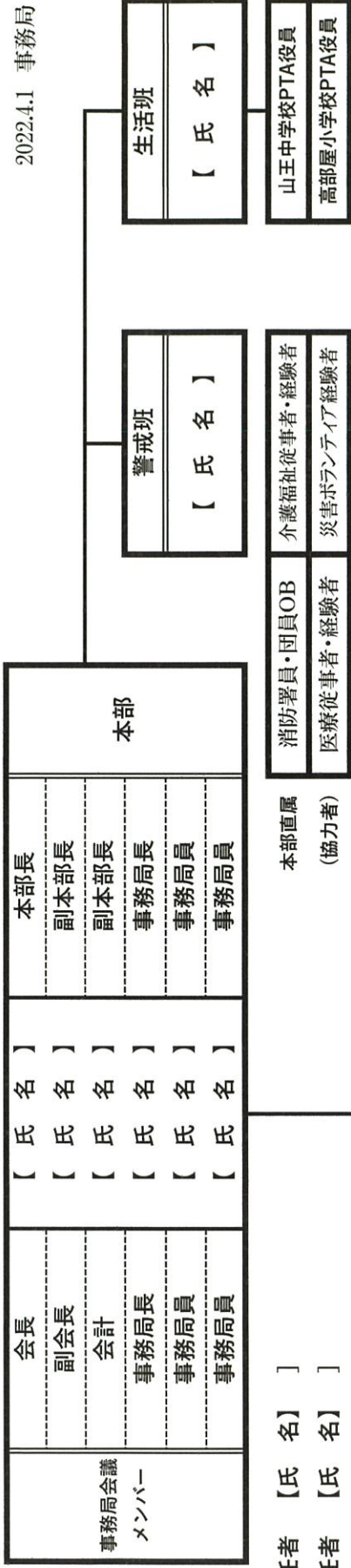
4 今回防災活動を進めるに当たり以下のことを心がけていきます。

- ①自主防災の意識・知識を高める普及活動を **自治会員全員を対象として、継続的に行なう。**
- ②被害者ゼロを目標とした実践的防災訓練を

令和4年度 山王原自主防災会組織図

2022.4.1 事務局

(平常時) (災害時)



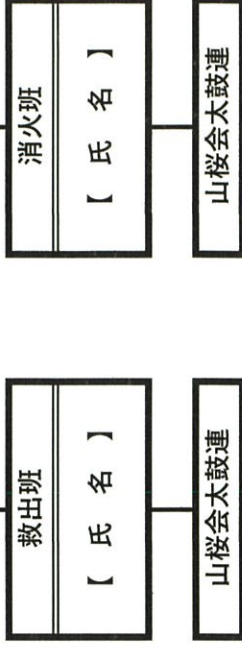
[第1緊急一時避難場所所責任者 【氏名】]

[第2緊急一時避難場所所責任者 【氏名】]

[活動指揮担当責任者 【氏名】・【氏名】]

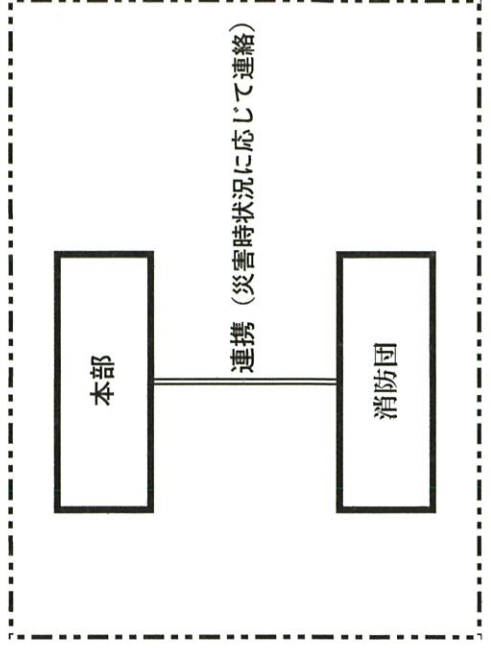
Aグループ長	
1班・2班・3班・4班・5班・6班	【氏名】

Bグループ長	
7班・8班・9班・10班・11班・12班	【氏名】



1班	情報収集班 班長	避難誘導班 前班長	(救出)	(消火)
			班員	班員
2班	情報収集班 班長	避難誘導班 前班長	(救出)	(消火)
			班員	班員
3班	情報収集班 班長	避難誘導班 前班長	(救出)	(消火)
			班員	班員
4班	情報収集班 班長	避難誘導班 前班長	(救出)	(消火)
			班員	班員
5班	情報収集班 班長	避難誘導班 前班長	(救出)	(消火)
			班員	班員
6班	情報収集班 班長	避難誘導班 前班長	(救出)	(消火)
			班員	班員

7班	情報収集班 班長	避難誘導班 前班長	(救出)	(消火)
			班員	班員
8班	情報収集班 班長	避難誘導班 前班長	(救出)	(消火)
			班員	班員
9班	情報収集班 班長	避難誘導班 前班長	(救出)	(消火)
			班員	班員
10班	情報収集班 班長	避難誘導班 前班長	(救出)	(消火)
			班員	班員
11班	情報収集班 班長	避難誘導班 前班長	(救出)	(消火)
			班員	班員
12班	情報収集班 班長	避難誘導班 前班長	(救出)	(消火)
			班員	班員



☆本年度班長・前年度班長が不在のときは前々年度班長がフォローすること。

1 準備編

- ① 家具の配置に注意 約6割の部屋で家具が転倒
 - ・寝室、子ども部屋、避難経路にはなるべく家具は置かない。(低い家具なら可)
- ② 家具類の転倒・落下・移動防止対策を
 - ・転倒防止金具などで固定し、倒れにくくしておく。
 - ・本棚や茶ダンスなどは、重い物を下の方に収納し、重心を低くする。
 - ・棚やダンスなどの高いところに危険な物を載せて置かない。
 - ・大地震が発生したときには「家具は必ず倒れるもの」と考えること。
- ③ ケガをしないための対策を
 - ・食器棚や窓ガラスなどには、ガラスの飛散防止措置をする。
 - ・懐中電灯、スリッパをすぐに使える場所に置く。
- ④ 家の周囲の確認を
 - ・コンクリートブロック塀や石造りの塀は、点検をし、倒れないよう補強しておく。
 - ・伊勢原市は、「危険ブロック塀等撤去等補助金制度」があります。

2 備え編

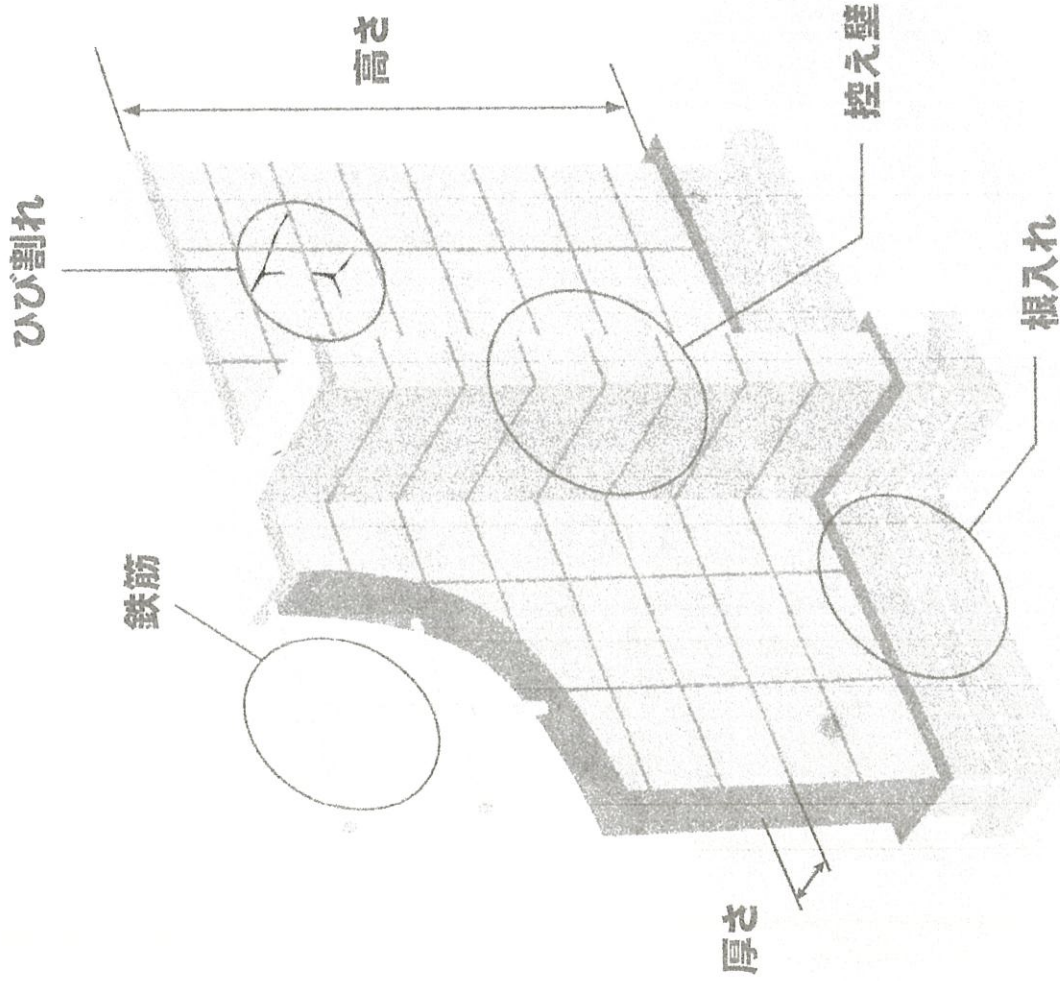
- ① 火災の初期消火
 - ・消火器
設置義務はありませんが火災の初期消火には一番の対策です。
住宅用の有効期限は5年 薬剤の詰め替えは不可
古い消火器を使用しての死亡事件事例あり。
推奨消火器 (別紙参考)
 - ・風呂の水のくみ置き
幼児がいる家庭は細心の注意をすること。(溺れるおそれあり)
- ② 非常用品・備蓄用品
 - ・非常用品は、「非常持出袋」に入れ、置き場所を決めておく。
飲食料は3日分
 - ・備蓄品
一週間分を目安に

3 行動編

- ・家族が離れ離れになった場合の安否確認の方法や集合場所を決めておく。
- ・家族で避難場所や避難経路を確認しておく。
- ・家族及び隣り近所とのコミュニケーションをしっかりとる。

ブロック塀について、以下の項目を点検し、ひとつでも不適合があれば危険なので改善しましょう。
 まず外観で1～5をチェックし、ひとつでも不適合がある場合や分からないことがあれば、専門家に相談しましょう。

- 1. 塀は高すぎないか
 - ・塀の高さは地盤から2.2m以下か。
- 2. 塀の厚さは十分か
 - ・塀の厚さは10cm以上か。(塀の高さが2m超2.2m以下の場合には15cm以上)
- 3. 控え壁はあるか。(塀の高さが1.2m超の場合)
 - ・塀の長さ3.4m以下ごとに、塀の高さの1/5以上突出した控え壁があるか。



組構造(れんが造、石造、鉄筋のないブロック造)の塀の場合

- 1. 塀の高さは地盤から1.2m以下か。
- 2. 塀の厚さは十分か。
- 3. 塀の長さ4m以下ごとに、塀の厚さの1.5倍以上突出した控え壁があるか。
- 4. 基礎があるか。
- 5. 塀に傾き、ひび割れはないか。

<専門家に相談しましょう>

- 6. 基礎の根入れ深さは20cm以上か。

- 4. 基礎があるか
 - ・コンクリートの基礎があるか。
 - 5. 塀は健全か
 - ・塀に傾き、ひび割れはないか。
- <専門家に相談しましょう>
- 6. 塀に鉄筋が入っているか
 - ・塀の中に直径9mm以上の鉄筋が、縦横とも 80cm間隔以下で配筋されており、縦筋は壁頂部および基礎の横筋に、横筋は縦筋にそれぞれかぎ掛けされているか。
 - ・基礎の根入れ深さは30cm以上か。(塀の高さが1.2m超の場合)

阪神・淡路大震災では死者の85%は建物や家具の下敷きによる圧死
(死者 6000人 負傷者 43000人) 震度7

1 安全な場所とは（昔から言われている場所だが）

① テーブルの下に避難する。

- ・落下物から身を守るには有効。長時間だと身動きが取れなくなる恐れあり。

② トイレに避難する。

- ・狭くて柱に囲まれているので安全。（昔はよく言われていた）
- ・今は建築方法が以前とは違い、トイレは柱で区切られていない場合もある。
- ・落下物で扉が開かなくなり閉じ込められる。

③ 玄関に避難する。

- ・狭くて柱が多い。大きな家具もなく割と安全である。（ガラスの引き戸は除く）
- ・扉を開けて避難路を確保しておくこと。すぐに外に避難できる
- ・座布団、クッションで頭を守り待機。

玄関は安全ゾーン

× { シャンデリア・大きい家具・
ガラス戸

2 地震時台所にいた場合

① 火を消してすぐにその場から離れること

- ・刃物・食器・ガラス類が食器棚より落下してくる可能性大。
- ・凶器に変わるものがたくさんある。

キッチン危険地帯

3 地震時お風呂（入浴中）にいた場合

① 洗面器やお風呂のふたで頭を守る。

- ・鏡やガラスが多く、揺れで破損物が飛び散りケガをしやすい。
- ・衣類やバスタオルを持って、いつでも逃げられるように玄関に行き待機。
- ・一時の恥よりも、まずは命を守ることを最優先に考えて行動する。

4 地震時2階にいた場合

- ・大揺れの中で無理に階下へ降りなくてもよい。落下する恐れあり
- ・2階は重いものが少なく、空間に隙間ができやすいので、生き延びる可能性は高い

地震の時に安全な場所とは、以下のような場所と考えられています。

1. 落下物、転倒物の少ない場所
2. 窓が少ない場所
3. 閉じ込められない場所

消火器の種類と事務局推奨消火器

⑧

2022.5.6 事務局

粉末消火器

強化液消火器

エアゾールタイプ

①

②

③

④



モリタ宮田工業
アルテシモ
MEA4H

ヤマトプロテック
3型 FM1000X

初田製作所
クマさん消火器
ALS-1R

丸山製作所
クイックガード

販売金額	4200円～5000円	4500円～5200円	5500円～7000円	1000円～1800円
消火剤の量	1200ml	1000ml	1000ml	500g
本体重量	1.9kg	2.3kg	2.7kg	0.5kg
放射時間	16秒	12秒	22秒	25秒
放射距離	3～5m	3～6m	4～6m	2～3m
使用期限	5年	5年	5年	
消火対象	あらゆる火災	あらゆる火災	油火災	油火災
視界	悪い	悪い	クリア	良い（霧状）
片付け	大変 （広範囲に粉だらけになる）	大変	簡単 （拭き取るだけ）	簡単

- ①②一気に火勢を抑える。広範囲の消火可能。／使用後の片づけ大変・放射時間少々短い。
- ③放射時間が長いので落ち着いて消火できる。浸透性高く再燃防止効果高い。／少々重い。高価。
- ④使いやすく初期消火に有効。使用後の片づけ楽。／消火器程の消火能力はない。

推奨します エアゾールタイプ消火具 + 粉末消火器

（発見が早い段階ならばエアゾールタイプでも十分消火可能・燃え広がりつつある時は消火器で）

非常持出品・非常備蓄品を準備しましょう

下のリストは代表的な非常持出品、非常備蓄品の例です。家族全員分の食料・水を備えることを基本にして、高齢者がいる、赤ちゃんがいるといった家族の状況に応じて必要なものを加えましょう。家族に食物アレルギーのある人がいる場合、アレルギー対応のミルクや食品は各家庭で必ず備えておくようにしましょう。

また、ペットの受け入れが可能な避難所でも、ケージやリード等を持参することが受け入れ条件となる場合がありますので、ペットを飼育している場合は必ず用意しておきましょう。



●非常持出品 (例)

番号	品名	数量
		大人2人分
1. 基本品目		
1	非常持ち出し袋	1袋
2	缶入り乾パン(110g)	2個
3	ペットボトル入り飲料水(500ml)	6本
4	懐中電灯	2個
5	ローソク	2本
6	ライター	2個
7	携帯ラジオ(乾電池)	1台
8	軍手・手袋	2対
9	タオル	4枚~
10	ポリ袋	10枚
11	トイレトーパー	1ロール
12	ウエットティッシュ	2個~
13	万能はさみ	1セット
14	救急袋	1枚

番号	品名	数量
		大人2人分
15	ばんそうこう	10枚~
16	ガーゼ(滅菌)	2枚
17	三角巾	2枚
18	脱脂綿	適当量
19	包帯	2巻
20	消毒薬	1本
21	毛抜き	1本
22	マスク	2枚
23	常備薬・持病薬など	適当量
24	ロープ 5m	1本
25	レジャーシート 2畳	1枚
26	サバイバルブランケット	2枚
27	簡易トイレ袋	2枚~
28	現金(10円玉)	約50枚
29	ガムテープ(布製)	1個

番号	品名	数量
30	油性フェルトペン(太)	1本
31	筆記用具	1セット
2. 必需品・貴重品類		
1	現金	
2	車や家の予備鍵	
3	予備メガネ・コンタクトレンズ等	
4	携帯電話	
5	預金通帳	
6	健康保険証	
7	運転免許証	
8	パスポート・外国人登録証等	
9	印鑑	
10	証書類	
11	住民票	
12		

●非常備蓄品 (例)

番号	カテゴリー	品名	数量	
1. 基本品目				
1	飲料	飲料水		
2		非常用給水袋		
3	食料	アルファ米		
4		乾パン		
5		パン缶		
6		インスタントラーメン		
7		缶詰類		
8		レトルト食品		
9		切り餅		
10		スープ		
11		味噌汁		
12		ビスケット		
13		キャンディ		
14		チョコレート		
15		塩		
16		衣類	上着	
17			下着	
18	靴下			
19	生活用品	タオル		
20		バスタオル		
21		毛布		
22		雨具		
23		予備電池		
24		卓上コンロ		
25		ガスボンベ		

番号	カテゴリー	品名	数量
26	生活用品	固形燃料	
27		鍋	
28		ラップ	
29		アルミホイル	
30		やかん	
31		皿(紙・ステンレスなど)	
32		コップ(紙・ステンレスなど)	
33		わりばし	
34		スプーン	
35		フォーク	
36		歯ブラシ	
37		石鹸	
38		ドライシャンプー	
39		携帯電話の充電器	
40		新聞紙	
41		使い捨てカイロ	
42		安全ピン	
43		トイレトーパー	
44		ティッシュペーパー	
2. 固有必需品			
45	女性用品	生理用品	
46		ホイッスル付ライト	
47		鏡	
48		ブラシ	
49		化粧品	
50		おりものシート	

番号	カテゴリー	品名	数量	
51	高齢者用品	高齢者手帳		
52		おむつ		
53		着替え		
54		持病薬		
55		予備メガネ		
56		看護用品		
57		赤ちゃん用品	粉ミルク	
58			哺乳瓶	
59	離乳食			
60	スプーン			
61	洗浄綿			
62	バスタオル			
63	ガーゼ			
64	紙おむつ			
65	母子手帳			
66	玩具			
67	着替え			
68	ベビーカー			
69	ペット用品	ペット用品(食品、トイレ、リード、ケージなど)		
70				
71				
72				
73				
74				
75				

災害時における【安否確認カード】の使用方法

写真①



1. いつ使うのですか？
 - ・震度5弱以上の地震が起きたときです。
2. 今の地震が震度5弱以上であると何故わかるのですか？
 - ・Jアラート（全国瞬時警報システム）が発動するのが震度5弱以上の時です。
 - ・市の防災無線からサイレンと音声「大地震です。」で地震を知らせます。
3. どのように使用のですか？ 写真①②参照
 - ・自宅玄関のドアノブにかけて下さい。（門扉の把手部でもよいです。）
 - ・現在家の中にいる家族が全員無事なら【無事です】を表側に掲示して下さい。
 - ・支援を要請したときは【救助求む】を表側に掲示して下さい。
 - ・「安否確認カード」の表示がない場合は下記の4つの理由です。
 - ・①家の中にいるが身動きが取れない状態である。 ・②就寝中である。
 - ・③留守である。 ・④カードをかけるのを忘れている。

写真②



- ・情報収集班の人はカードが掲示されているか班内を見回って確認をして下さい。そして【救助求む】の表示がある場合または、カードの表示がない場合は、家中に「大丈夫ですか？」と声掛けを行なって下さい。そして救助要請者がいるとわかった場合、近隣住民と可能な限りの救助活動を行なうとともに、本部に連絡をお願いします。
- ・情報収集班の人は「安否確認シート」に1軒1軒チェックをして、最後にまとまったシートをグループ長へ渡して下さい。また同時に班内の被災状況を報告して下さい。『(例) ブロック塀が数カ所倒れていて車が通れない所があります。』

今回行なう防災訓練

⑫

2022.5.20 事務局

- 1 安否確認訓練
 - 2 情報収集訓練
 - 3 伝達訓練
 - 4 避難訓練
 - 5 避難誘導訓練
 - 6 初期消火訓練 ⇒ 令和 5年 3月実施予定
 - 7 救出訓練
 - 8 救護訓練
 - 8 炊き出し訓練
 - 9 給食給水訓練
 - 10 避難所運営訓練
- 今回はこの訓練をやります。

訓練内容

地震発生後、各班の【情報収集班長】が班内居住者の生存の確認をし、且つ被災状況(ケガ人、家屋・道路・ブロック塀等の状態、火災発生等)の情報を、迅速且つ正確に収集・報告する行動の訓練です。

『安否確認カード』

自治会員(1軒1枚)が 家族の安否を知らせるために使用。

『安否確認シート』

情報収集班長が 安否確認+被災状況を収集するために使用。

『安否確認シート集計表』

グループ長が 報告を受け情報をまとめるために使用。

安否確認シート【訓練用】

報告場所：第 緊急一時避難場所

記入者名：

安否確認にかけた人数 名

班名：

令和 年 月 日 時 分 開始
 令和 年 月 日 時 分 終了

番号	世帯名	安否確認カード掲示状況		安否確認	気が付いたこと	事務局記入欄
		掲示あり	掲示なし			
例	山王 太郎	○		<input type="checkbox"/> 済ならチェック	玄関ドアに掲示されていたが、門からとも離れていて見えないので出来れば門扉の把手に掲示してほしい	
1				<input type="checkbox"/> 済ならチェック		
2				<input type="checkbox"/> 済ならチェック		
3				<input type="checkbox"/> 済ならチェック		
4				<input type="checkbox"/> 済ならチェック		
5				<input type="checkbox"/> 済ならチェック		
6				<input type="checkbox"/> 済ならチェック		
7				<input type="checkbox"/> 済ならチェック		
8				<input type="checkbox"/> 済ならチェック		
9				<input type="checkbox"/> 済ならチェック		
10				<input type="checkbox"/> 済ならチェック		
11				<input type="checkbox"/> 済ならチェック		

集計欄	安否確認カードの掲示件数集計	件	掲示なし合計：	件
	掲示あり合計：	件		件

『安否確認シート【訓練用】』の記入方法の説明

⑮

2022.5.24 事務局

安否確認シート【訓練用】

班名： 班

報告場所：第 緊急一時避難場所

記入者名：
安否確認にかけた人数 名

令和 年 月 日 時 分開始
令和 年 月 日 時 分終了

番号	世帯名	安否確認カード掲示状況		安否確認	気が付いたこと	事務局記入欄
		掲示あり	掲示なし			
1	鈴木	○		<input type="checkbox"/> 済ならチェック	玄関ドアに掲示されていたが 植木で見づらい	
2	高橋	○		<input type="checkbox"/> 済ならチェック	カードが一部破損している	
3	山口		○	<input type="checkbox"/> 済ならチェック		

集計欄	安否確認カードの掲示件数集計	
	掲示あり合計	件

記入方法の説明

- 表記されている【班名】【報告場所】を確認して下さい。
 - 1班～6班は『第1緊急一時避難場所（上粕屋神社参道）』
 - 7班～12班は『第2緊急一時避難場所（山王原教会横庭・藤川孝邸駐車場）』
- 記入者名を記入して下さい。
 - 何人かで分担して「安否確認カード」の掲示状況を調べる場合はこの「安否確認シート」をコピーして使用して下さい。そして提出用として1枚に転記して提出して下さい。
- 安否確認にかけた人数を記入して下さい。
 - 手分けして安否確認を行なった場合はその人数を記入して下さい。
- 調査開始時間と終了時間を記入して下さい。
- 「安否確認シート」に表記されている番号と配布された「安否確認カード」に貼られている番号は同じになるように世帯名を表記してあります。
 - 表記された世帯名の順番は、必ずしも安否確認をする順番ではありません。
- 安否確認カードの掲示状況の欄の当てはまる項目に○を記入して下さい。
- 安否確認が終わったら **レ点チェック**をして下さい。
- なにか気が付いたことがあったら記入して下さい。
 - (例)『安否確認カード』が破損している。
- 集計欄にはそれぞれの項目の合計数を記入して下さい。

安否確認シート集計表【訓練用】[Aグループ]

報告者名：

令和 年 月 日 時 分現在

班	総世帯数		安否確認カードの掲示状況		掲示率% 小数点以下第一位を四捨五入	安否確認の開始時間と終了時間	
	備考	世帯	掲示あり	掲示なし		安否確認にかけた人数	安否確認に掛かった時間
1班	18	世帯		世帯	%	開始時間	終了時間
	備考					調査人数	時間
2班	14	世帯		世帯	%	開始時間	終了時間
	備考					調査人数	時間
3班	9	世帯		世帯	%	開始時間	終了時間
	備考					調査人数	時間
4班	12	世帯		世帯	%	開始時間	終了時間
	備考					調査人数	時間
5班	16	世帯		世帯	%	開始時間	終了時間
	備考					調査人数	時間
6班	17	世帯		世帯	%	開始時間	終了時間
	備考					調査人数	時間

世帯数合計		掲示あり	掲示なし	掲示率
86	世帯	世帯	世帯	%

事務局記入欄

合計

震度階級別状況表

震度	人の体感・行動	屋内の状況	建物 地盤 斜面の状況
4	・寝ている人のほとんどが目を覚ます。	・棚の食器が音を立てる。 ・座りの悪い置物が、倒れることがある。	
5弱	・大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。	・棚の食器、書棚の本が落ちることがある ・座りの悪い置物の大半が倒れる。 ・固定していない家具が移動することがある ・不安定なものは倒れることがある。	
5弱	①Jアラートが起動して市内の防災無線の放送が発信される。 ②「緊急地震速報」が発信される。 ③市役所内に災害対策本部が設置され、全職員による非常体制がとられる。 ④消防本部庁舎内に消防団対策本部が設置される。⑤地震管制装置付きのエレベーターが自動停止する。 ⑥安全装置付きガスメーターのガスが供給停止する。 ⑦学校（小中高）が休校となる。（一部市町村は震度5強）		
5強	・大半の人が、物につかまらなないと歩くことが難しい。	・棚の食器類、書棚の本で、落ちるものが多くなる。 ・テレビが台から落ちることがある。 ・固定していない家具が倒れることがある	・壁などにひび割れ・亀裂がみられることがある。
6弱	・立っていることが困難になる。	・固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。 ・ドアが開かなくなることがある。	・瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。（木造） ・地割れが生じることがある
6強	・立っていることができない ・這わないと動くことができない。 ・飛ばされることもある。	・固定していない家具のほとんどが移動し倒れるものが多くなる。	・傾くものや、倒れるものが多くなる。（木造） ・大きな地割れが生じることがある。 ・がけ崩れが多発し、大規模な地すべりが発生することがある。
7		・固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。	

大地震が起きたら 「みんなの行動」

	自主防災会 【役付者】	現班長 【情報収集班長】	前班長 【避難誘導班長】	他の会員
地震発生	『家の中での行動』 自分と家族の命を守るための行動を取ること			
震度5弱以上の確認をする	発生した地震が震度5弱以上の時は必ず、地震発生後『Jアラート』が発動、市の防災無線で大地震発生の放送があります。この放送を確認したら			
揺れが治まり落ち着いたら	【安否確認カード】を玄関・門扉の把手部に掲示をする			
5~10分	外に出て 『向こう三軒両隣』を確認する。			
10~15分	【安否確認カード】で「救助求む」の掲示及び、火災・ケガ人を発見したら、隣近所に声かけをして助け合う。同時に班長（情報収集班）に連絡、班長はグループ長に報告をする。（応援依頼・状況説明）			
15~60分	第1緊急一時避難場所に集合する人 延本部長/頼住副本部長/佐藤事務局長/須藤事務局員/横関事務局員/原グループ長/中川消防班長/塚越救出班長/山王中・高部屋小PTA役員/太鼓連/本部直轄協力者	1班~6班の情報収集班長は第1緊急一時避難場所、7班~12班の情報収集班長は第2緊急一時避難場所に集合し、グループ長に班内の状況（第1報）を報告した後、各班に戻って行く。	【要援護者】の避難誘導を優先的にこなうこと。 避難者を緊急一時避難場所へスムーズに誘導する	家に被害がない場合 [家に戻って様子を見る]
				家が倒壊あるいは倒壊のおそれがある場合 隣近所に声掛けし、周囲に注意しながら緊急一時避難場所へ避難する。
				火災を発見 近隣者に声かけをして初期消火に務める + 本部 に連絡をする。
				ケガ人を発見 近隣者に声かけをして救出に務める + 本部 に連絡をする。
60~90分	第2緊急一時避難場所に集合する人 先原副本部長/三原グループ長	「安否確認カード」を班内全軒確認し「安否確認シート」に記入する。そしてまとまったらグループ長に提出する。	避難誘導のめどがたったら、[安否確認]及び[情報収集]の対応へ。	
	1班~6班は【第1緊急一時避難場所】 7班~12班は【第2緊急一時避難場所】			
	「安否確認シート」を受け取ったグループ長は「安否確認シート集計表」をまとめ完了後、第2緊急一時避難場所の人達は第1緊急一時避難場所に合流する。			